



非認知能力の醸成（5年生自然の教室より）

校長 新堀 栄

『暑さ寒さも彼岸まで』と言いますが、今週の月曜日にも真夏日を観測し、「今度こそ、これが最後の真夏日であろう」と、いつも思いながら過ごしています。大阪では、真夏日がとうとう100日を超え、いよいよ「四季」が無くなってしまうことも危惧しています。

さて、先々週の火曜日から2泊3日の日程で、5年生の子ども達と「自然の教室」で館岩少年自然の家に行ってきた。秋雨の季節でしたが、天候に恵まれ、予定していた全ての野外活動を存分に体験することができました（ちなみに3日目の帰路は土砂降りとなりました）。1日目はフィールドワークで「自然の家」の敷地内を巡り、建物や広場などの位置関係を覚えしました。夜は満天の星空のもと実施したキャンプファイヤーで、大自然に囲まれた厳粛な雰囲気の中で友情を育みました。その他にも、2日目の「イワナさばき」や、1,040mの前山登山、杉の木の焼き板づくり、真っ暗闇の中を進むナイトハイク等、さいたま市ではできない貴重な体験を行いました。

自然の家には、このような言葉があります。『自然の家にいれば、子ども達は3日で変わる』と…。子ども達にとって、家庭を離れ、仲間とともに、東京ドーム7つ分の広大で美しい自然環境の中で思う存分活動できたことは、何事にも代えがたい経験になったことと思います。そして、豊かな心を育てるとともに、所属意識を育むことができたことでしょう。事実、子ども達は、この3日間で確実に変わり、逞しくなりました。私自身が重要視している、非認知能力（学力検査や知能検査では測定できない能力）の醸成は、確実に達成できたことと思います。自然の家で取りまとめをしている非認知に関するアンケート結果では、特に「自尊感情」「主体的にやり抜く力」「協調性」「自然への興味・関心」の項目で非常に大きい伸びを見せています。小学校の時期は、感性の発達が著しい時期です。自然の変化に気付いたり、美しい自然に感動したりすることの積み重ねで、豊かな感性と知性が育っていくと考えています。ぜひ、ご家庭においても自然に触れ、できる範囲で豊かな自然体験をさせていただければと思います。最後に、自然の教室における子ども達の感想の一部を紹介します。

- 「五感を使うこと」「感謝すること」「自然に触れること」の3つの目標を意識して全ての活動に没頭できました。
- 「イワナさばき」は、魚が動いていてこわかったけど、命をいただくことに感謝して、その後の「いただきます」と「ごちそうさま」の言い方が変わりました。
- キャンプファイヤーの炎しかない空間で友達と絆を深める時間は、とてもドキドキワクワクしました。学年の友情を深められたので、もう一回やりたいです。
- 前山登山では、何度もあきらめそうになったけど、班の人たちのはげましで最後まで登ることができました。

気がつけば、何と日暮れが早くなったことでしょう…。令和7年度も半分が過ぎたことになります。現在は、各学年とも運動会に向けて練習を始めたところです。ひと月後の雄姿を、是非楽しみにしててください。子ども達には、運動会の練習や本番当日の演技を通して、大きな非認知能力の伸長が見られることでしょう。